

平成 27 年 4 月 26 日

南 の 風 1 2 3

南部ミニバスケットボール連盟
会 長 藤原 敬一

中学校女子の練習会について、122号の続きです。

この練習会の立ち上げは、昨年度の夏に開催されました小中高の指導者交流会での話し合いが発端です。まずアクションを起こすことが大切と考え、できることからということで始めました。根底には小中高連携がありました。先年度は、永田台ビーバースのOGを中心にしました。2～3校の中学校からの参加がありました。高校生が2～3名参加した時もありました。中学校の顧問の先生にも連絡しました。但し、中学校の活動ではありませんので保護者方の責任において参加をお願いしました。

また、ミニバス連盟の主催でもありません。試験的にやって見て、これからの方向性を探っていくということです。今年度は、南区及び近隣地区の中学校からとしました。しばらくこの体制（主催は、藤原と中村）でやっていこうと思っています。

始めに確認しておくことは、この活動は中学校の部活動への介入ではないということです。練習内容に片寄を持たせたり、戦術を押し付けたりするものではありません。また、顧問の先生のやり方の妨げにならないように、十分配慮して指導していきます。シュート、パス、ドリブル、オフボールマンの基本的な動きなど、ファンダメンタルスキルに視点を当てて進めていきます。週1回の練習です。スキルの上達だけを期待するものではありません。選手が基本の大切さに気づき、中学校で『自立』した練習ができるようになればと思っています。

今年度は、中学校の顧問の先生にも参加していただき、今後の方向性を見出したいと考えています。

昨年からこれまでの活動を振り返って、感想を書きます。

まず気が付くことは、ファンダメンタルスキルの定着の難しさです。例えば、パワーポジションからのスイングやシェーピングなど、ミニの時代にやったことが継続してできていないことです。悪い癖や習慣はすぐ付くのですが、正しいスキルの定着には時間が掛かり、しかも忘れやすいということです。我々ミニの指導者の反省として、ミニの時代から、『自分から進んで取り組む』ようにさせなければならぬと改めて思います。やらされているうちは、自分のものにはならないということです。

次に感じたことは、ミニの時代に比べて中学の選手は、吸収する力が早いことです。私と一緒に指導している小池コーチも、「一つのスキルを教えると飲み込みが早く、ディフェンスがいなければできるようになるのが早いですね。」と言っていました。こうしたことから、我々ミニの指導者は成長段階をしっかりと捉え、普段から『もっと丁寧に、わかり易く指導する』ことが必要だと感じました。

最後になりますが、中学校の練習状況です。以前から体育館の使用回数の少なさや練習時間の短さについては聞いていました。週2回（土日を含めて）の体育館使用の問題や、ウィークデー（特に冬季）は、1回の練習時間が短い（正味1時間に満たない）ことがあるようです。こういった状況の中、顧問の先生の苦勞が目に見えるようです。中学校の中には、保護者の協力の下、スポーツセンターを使用したり、高校との合同練習をしたりして、練習回数を確保している学校もあるようです。今後、練習時間や練習回数について、小中高の連携の中でも取り上げていきたいと考えます。